

ランドスケープ・アーキテクチャ・デザイン研究室

教員名：五島聖子

どんな研究をしているところ？どんなことに役立つの？

ランドスケープ・アーキテクチャ（Landscape Architecture）は、一般に「造園」を訳語として当てられています。これは19世紀後半に都市の環境問題対策として計画されたセントラルパークの造成を機にアメリカで生まれた、造園空間だけではなく都市や自然公園を審美的、政治的・文化的・環境保全的役割を考慮して自然環境を計画する専門分野です。（写真：セントラル・パーク）



ランドスケープ・アーキテクチャの仕事は単に樹木を植えるということではなく、緑地が都市のインフラ機能としてどのように計画されるべきか、人々の生活をどのように改善できるか、また生態系の保全や環境の改善にどのように貢献できるかを提案します。

人間を取り巻くすべてのスケールにおける自然環境をデザインするランドスケープ・アーキテクチャは、非常に幅広い学問領域で、芸術、科学、デザイン、そして環境の問題を取り扱います。究極的には人間の生活環境をいかにデザインするかということですが、そのデザインに期待される社会的・文化的に担う役割は時代とともに移り変わっています。

この研究室では、21世紀の現在、ランドスケープに何が求められ、どのような可能性があるのか、また環境問題や生態系保全問題、また社会問題や人々の健康が、どのように緑地のデザインによって改善することができるか検討します。特にアメリカのカリフォルニア大学バークレイ校とハワイ大学マノア校のランドスケープ学科と学際交流を深めています。毎年バークレイ校のランドスケープ学科の優秀な大学院生が長崎大学に訪れ、本研究室の学生と共同でプロジェクトを進めます。又、本研究室からバークレイ校ランドスケープ学科への短期留学も推進しています。外国の大学院生とのコミュニケーションに興味のある、外向き志向の学生さんを歓迎します。

本研究室では以下のような目的で学術指導を行います。

- 土地利用と環境デザインの関連についての研究の推進。
- 文化（芸術・宗教・政治）と環境の関連についての研究の推進。
- 環境デザインと保健衛生・社会の関連についての研究の推進。
- 学会や学術シンポジウムに発表できるレベルの研究の指導。

先輩はどんなところに就職しているの？

これまで本研究室の学生は、古庭園の研究とランドスケープ・デザイン専門性を高めるために、アメリカの大学を含む大学院に進学する学生が過半数を占めています。学部卒で就職する学生は建設関連会社の営業又は一般事務、大学院卒で就職する学生は設計者として設計事務所あるいはコンサルタント会社での就職が決まっています。